

時代によって変化した
マクロス級の軌跡

新マクロス級

空母型

BATTLE-21/
MF21-01
バトル・ギャラクシー

バトル級21番艦で、第21次新マクロス級超長距離移民船団の旗艦、マクロス・ギャラクシーのメインランドに接続されている。船体の構造はマクロス・フロンティアと同じだが、カラーリングを含め、細部が異なっている。バトル・フロンティア、マクロス・クォーターとの戦闘で失われた。全長：1,681m（空母型）、重量：1,655万t

強攻型

空母型

BATTLE25/
MF25-01
バトル・フロンティア

2041年に地球を出航した第25次超長距離移民船団の旗艦、マクロス・フロンティアのアイランド1に接続されているバトル級可変空母。胴体、両腕、両脚、主砲の計6隻の艦艇が合体して構成されている。マクロス・キャノンには強攻型だけではなく、空母型でも発射が可能。全長：1,681m（空母型）、重量：1,655万t。

強攻型

バトル級

SDF-/C-108
マクロス・エリシオン

ケイオス・ラグナ支部の拠点であるマクロス級戦艦。両腕はフライトデッキになっており、左腕にあたる「アイテール（CV/C-109）」は△小隊の母艦で、右腕の「ヘメラー（CV/C-110）」はα、β、γの各小隊の母艦であると同時に、マクロス・キャノンに変形する。通常はバレッタシティーに強攻型の形状で駐留する。

空母型

強攻型

バトル7

マクロス7移民船団の護衛艦隊の旗艦。通常はシティ7の先端に接続されている。戦闘時には分離し、空母から強攻型へと変形する。その際、艦内に格納されていた各種砲台が展開されるほか、艦底に取り付けられていたガンシップをマクロス・キャノンとして使用する。全長：1,510m、重量：777万t

バトル7（空母型）

バトル7
（強攻型）

マクロス・クォーターの
同型艦

マクロス・クォーターには複数の同型艦が建造されている。外見的な違いはないが、迷彩や青と白のツートンなど、カラーリングが異なっている。また、各艦ともに異なる船団に所属しているが、バジュラ本星の戦いに駆けつけている。

マクロス・クォーター

民間軍事プロバイダー「S.M.S.」の旗艦を務めた艦艇。既存のバトル級と比較して1/4のサイズで、強攻型では格闘戦も可能な運用性を有する。センターハルを中心に、右腕部がガンシップ、左腕部が空母、両足は移動砲台艦の計5隻の艦艇で構成される。これらの艦艇は分離しての航行も可能。全長：402m（空母型）、重量：16.5万t。

空母型

強攻型

マクロス級

強襲揚陸艦ダイダロス

航空母艦プロメテウス

強攻型

要塞艦

SDF-1 マクロス

1999年に南アタリア島に到着したASS-1（地球統合軍のコードネーム）を改修した艦艇。本艦から得た技術は「OTM（オーバーテクノロジー・オブマクロス）」として、地球の科学レベルを飛躍的に向上させた。主砲発射時にはトランスフォーメーションによる強攻型への変形がなされるほか、左舷には航空母艦プロメテウス、右舷には強襲揚陸艦ダイダロスが接続される。全長：1,210m（要塞型）、重量：1,800万t

SDF-1
マクロス

要塞艦

アームド-01

アームド-02

強攻型

新マクロス級

メガロード級

SDF-2 メガロード

2003年に建造が開始されたマクロス級の2番艦。第一次星間戦争などでの中断を経たのちに仕様変更されて、大型移民船として完成した。一番艦はメガロード-01として2012年に超長距離移民船団として出航。その後、複数の同系艦が建造され、移民船団として運用された。

NMCV-07 マクロス7

第37次超長距離移民船団の旗艦である新マクロス級7番艦。居住艦「シティ7」とその先端に接続された「バトル7」で構成される。艦のサイズは旧来のメガロード級に比べて非常に大きく、商業施設をはじめ、緑化地区など、都市と同じ居住性を有する。そのため、収容人口も多く、数十万人が居住していた。全長：7,770m、重量：77億7千万t。

南アタリア島に到着した異星人の艦艇——後のSDF-1 マクロスは、人類に大きな恩恵をもたらした。当初は、そのオーバーテクノロジーを使いこなすことはできなかったものの、第一次星間戦争終結後のメガロード級の建造による超長距離移民船団の就航以来、様々な形に発展していくこととなる。それが都市型超長距離移民船「新マクロス級」とバトル級可変ステルス攻撃宇宙航空母艦である。2030年以降はこの形態の移民船団が主流となり、さらには、より小型のマクロス・クォーターが建造、運用されたのだった。



「Yami Q ray」

闇雲

シャロン・アップル型量子AIシステムの発展型とされるヴァーチャロイド。パイオ・ニューロチップの代わりに「星の歌い手」の細胞が使用されている。

闇フレシア / 闇カナメ / 闇レイナ / 闇マキナ

ヘイムダルによって生み出されたヴァーチャロイドユニット。闇雲を中心とした5人の歌声の相乗効果によって、強力な生体フォールド波を発生させる。



「ワルキューレ」

マキナ・中島

VF-0 フェニックスの設計と整備担当を務めた中島雷蔵を曾祖父に持つ。その出自から、メカに強い。レイナとは姉妹のように仲がいい。

レイナ・ブラウラー

ワルキューレの電子戦担当で、コンピューターに精通する。自称「不可能のない女」で、ファッションと言語に独特のセンスを持つ。

カナメ・バクニア

ユニット結成時からのメンバーで、ワルキューレのリーダー。以前はソロで活動していたが、ケイオスに参加した。過去にランカ・リーと共演したとされる。

フレシア・ヴィオン

ワルキューレのメンバーになるという夢をかねた少女。ウィンダム星レイブングラス村の出身で、凱旋ライブを兼ねて里帰りをすることとなった。

美雲・ギンヌメール

ワルキューレのエース。強い生体フォールド波を有する「星の歌い手」のクローン。ワルキューレであることに強い誇りを抱いている。

西暦2068年、ワルキューレとそ の前に現れた黒き戦女神たち



「ヘイムダル&イプシロン財団」

アイアン・クロムウェル

クロムウェルは「鋼鉄のクロムウェル」と呼ばれた元新統合軍の軍人。8年前に行方不明となっていたが、「ヘイムダル」を組織し、決起した。シドニーはイプシロン財団の人間で、クロムウェルをバックアップしている。

ヨハン

風の神の神官のひとり。村では村長よりも発言力を持つようだ。フレシアを幼少期から知る。

村長

フレシアの故郷であるレイブングラス村の村長。

ハイツツ二世 (ハイツツ・ネーリツヒ・ウィンダム)

ウィンダム星の国王で、「風の歌い手」。亡命したフレシアの帰郷をとりなした。

ボーグ・コンファールト

空中騎士団のエースパイロットで、「赤騎士」の称号を持つ。ケイオスへと入隊し、ヘイムダルからのウィンダム解放を目指す。

「ウィンダム星王国&空中騎士団」



「ケイオス」

エキセドル・フォルモ

マクシミリアン・ジーナス

かつてマクロス7船団を率いたが、退役後はケイオスにスカウトされて、マクロス・ギガシオンにてマックスは艦長。エキセドルは参謀の座に就いている。

チャック・マスタング

惑星ラグナ出身で、Δ小隊のムードメーカー的存在。ハヤテたちをサポートするほか、兄弟たちと「裸喰娘々」を運営する。

アラド・メルダース

Δ小隊の隊長。高い操縦技術に加えて、指揮能力にも優れ、部下からも信頼を寄せられている。小隊メンバーのスカウトも行っている。

ミラージュ・ファリーナ・ジーナス

エースパイロットであるマクシミリアン・ジーナスの家系に連なる人物で、Δ小隊の紅一点でもある。その出自ながら、パイロットとしては伸び悩んでいる。

ハヤテ・インメルマン

Δ小隊に所属するパイロット。地球人でありながらΔ小隊の仲間と暮らす。ラグナ星や、フレシアの故郷ウィンダム星を守るため、ヘイムダルとの激しい戦闘に身を投じる。

「Δ小隊」



バトル・アストレア

「ヘイムダル」の旗艦。強攻型への変形時は、肩にあたる部分から、ウイング状のパーツが展開される。量子AIシステム「セイレーン」が使用されているようだが、その機能や性能は不明な点が多い。

Sv-303 ヴィヴァスヴァット

ティアン・ケヒト社が開発したVFで、量子AIシステム「セイレーン」によって制御される無人戦闘機である。エネルギー転換装甲の稼働時には装甲がライン状に発光する。また、高機動時には、4基のエンジンが展開する「第4のモード」となる。

「ヘイムダル」



マクロス・ギガシオン

マクロス・エリシオンの同型艦で、ケイオス・リスタニア支部の旗艦。強攻型、要塞型への変形が可能で、要塞型では同型艦と異なり艦隊に変異が装備されている。

YF-29 デュランダル (マックス機)

マックスが搭乗した機体で、EX-ギアシステムやフォールドウェーブシステムの採用によって、彼の技量を最大限に引き出した。VF-25 メサイアなどの兄弟機にあたる。

「ケイオス」